

# 会 議 議 事 録

1 会議名	令和7年度長岡市市民協働推進審議会
2 開催日時	令和8年3月6日（金曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	アオーレ長岡西棟3階 市民協働センター 第1・2協働ルーム
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p style="padding-left: 40px;">板垣委員 大原委員 小野委員 樺澤委員 上村委員 佐竹委員 田中委員 星野委員 渡辺委員</p> <p>(事務局)</p> <p style="padding-left: 40px;">小池市民協働推進部長 宮島市民協働課長 永井市民協働課長補佐 中村市民協働課市民協働係長 大隅市民協働課コミュニティ推進係長 稲川市民協働課アオーレ交流係長 星野市民協働課主事</p> <p>(サポート)</p> <p style="padding-left: 40px;">市民協働センタースタッフ</p>
5 欠席者名	恩田委員
6 議題	<p>(1) 市民活動のいま</p> <p>(2) 協働の方向性</p> <p>(3) これからの取り組み</p>
7 審議結果の概要	議題(1)～(3)について、事務局より説明があり、委員による意見交換が行われた。
8 審議の内容	<p>1 開会 (市民協働推進課長あいさつ)</p>

	<p>2 議事</p>
会長	<p>それでは、議題 (1) 市民活動のいまについて事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料 1-1 ~ 1-10 に基づき説明)</p>
会長	<p>ご質問、ご意見等いかがでしょうか。</p>
委員	<p>市民協働センターのコーディネーターへの負担が大きいのではないかと思います。幅広い専門性と資質が求められている。それに見合うだけの賃金が支払われているのか。また、特定の人がいなくなった場合、組織が続かなくなるような在り方では、市民活動は続いていかないと思う。誰でも対応できるような工夫がされているのか。</p>
事務局	<p>世間的に賃金は上昇している。十分かという点は個人の感覚によるが、難しい仕事であることから、見合った賃金を支払いたいと考えている。後継者やスキルについては、非常に重要な視点。役人は3年から4年で異動があるが、NPO 法人の職員であれば、腰を据えて同じ方に見てもらうことができる。今年から市民活動団体からの相談の担当者を曜日ごとに変え、特定の人に相談が集中しないよう工夫している。個々で得意分野はあるが、誰に相談をしても問題なく頼れる存在として定着している。</p>
協働センター	<p>開設当初から皆で相談案件を共有している。2週間に1回、担当している相談内容の共有や方針の確認を行っている。誰がどのような相談を受けているかの資料もあるため、自分が担当するもの以外の相談内容も把握している。</p>
会長	<p>協働センター内でもコーディネーターそれぞれに個性や考え方があると思う。コーディネーターによって回答が違っていると相談者は迷ってしまうが、今の話を聞いて納得した。現在はベテランのコーディネーターが多いが、新しい人材が入った場合には、育成のプロセスがあると良いと思う。</p>
委員	<p>栃尾では、地域おこし協力隊が住民となり、家を建てた。人口が減っているが、地域に関わり、定住してくれるのはありがたい。</p>
委員	<p>長岡市内で活動する地域おこし協力隊は何人いるのか。</p>
事務局	<p>現在 26 名。活動が終了した協力隊を含めると 50 名を超える。</p>
委員	<p>栃尾では、2 人の協力隊が住民になった。</p>
委員	<p>相談件数が増加し、市民活動が活発になっているように見受けられるが、補助金の活用件数が減少傾向にある理由は何か。</p>
事務局	<p>企業協賛など補助金以外の手段が充実してきていることが挙げられ</p>

	<p>る。また、令和2年度から補助率100%の上限額を20万円から10万円に減額した。同時に新型コロナウイルス感染症が流行したため、いずれの理由によるものかはかりかねるが、同種の補助金でも同様の傾向がある。資金調達手段が充実してきていると捉えることもできる。</p>
<p>委員</p>	<p>資料1-9について、行政の補助金は使い勝手が良くないとあり、加えて補助率の変更があったのであれば、補助件数の減少は問題ではないのかもしれないが、補助金は使い勝手が良いものであると良い。また、補助金の存在自体を知らない団体も多いと思うので、広報をしっかりと行うと良い。</p>
<p>会長</p>	<p>行政は、補助件数が減少したとき、補助金の制度を用意しているにも関わらずどうして活用されないのかと理由を考えるが、補助金を使ってもらうことが目的ではない。市民活動を応援するという目的があり、補助金は背中を押す手段に過ぎない。単純な件数の増減は重要ではない。必要な人が制度を知らない状況は良くないが、どのように補助金を活用できるのかを知ってもらい、やりたい人の背中を押すことができれば良い。クラウドファンディングなどの資金調達の手段も充実し、補助金を使わずに自力で資金を調達できていると考えれば、補助件数の減少は必ずしも悪い流れではないと思う。本来の目的である市民活動の活性化に対し、どのような施策を打つべきなのかということに立ち戻り、議論していけると良い。</p>
<p>委員</p>	<p>補助金の交付を受けるための申請が多く、その後団体の活動が継続していかない傾向があると思う。若者が年を取れば、市民活動は減少していく。今後、団体での活動が減少し、個人主体の時代になれば、市民活動が増えることはないだろうと思う。支援の目的が市民活動の活発化であるのか、あるいは維持であるのか、市の方針を示してほしい。</p> <p>また、寄付を集める手段としてクラウドファンディングが主流になっているが、透明性が低く、使途が分からないものが増えている。お金を集めるために社会的に認められる活動をアピールしているという側面もあるのだろう。今後、クラウドファンディングもあまり使われなくなる可能性もある。高齢化が進む中で、市民活動の在り方について方向性を検討することも必要だと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>補助金は、使い勝手が良い方が良い反面、交付を受けて終わってしまう心配もあるので、必ず落としどころが必要になる。補助金の交付を受けた団体が、翌年には消えていってしまう事例もあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ある。</p>
<p>会長</p>	<p>少額の申請に対しては、細かな指摘はせずに応援の姿勢をとり、金額が大きい申請では、補助率100%の上限額を超過した部分を自己負担としてもらうことでコントロールしている。</p>
<p>委員</p>	<p>私が所属している団体では、様々な補助金の交付を受けているが、ま</p>

協働センター	<p>だ団体にお金を使う力がない。残金が出ないよう無理に事業を行っている状況が数年続き、気運が下がっている。自分たちがやりたいことではなく、やらなくてはいけないことという意識がある。やりたい事業があり申請するお金と、お金が先に付いている事業では意味が違う。</p> <p>資料1-5に次世代や新たなテーマにバトンが渡されるとあるが、私の所属する団体でも一つ上の世代が頑張っていて取り組んできた活動が、中の世代を飛ばして自分たちの世代へ降りてきている。思いを繋ぎながら新たなものもつくらなくてはいけないという使命感がある。同様のケースの成功事例はあるか。</p> <p>中越大震災以降、多くの人が市民活動に参画する中で、当時補助金疲れの状況があった。お金を使うには、体力がいる。現在、団体が自立してきている一方で、体力がなくなっている地域が増えていることも常々感じている。活発だった世代から40代位の人にバトンが受け継がれている。色々な地域を見ている限りでは、70代後半までは地域活動を行っているように思う。60歳が高齢者とは言われないように、定年して引退する人が増えているにも関わらず、老人会が人手不足という状況もある。間を空けて一つ下の世代に仕事が降りてくるという事態は、どの地域でも起こっている。成功事例では、事業の削減や統合を行い、身の丈に合った内容に変えていっている。</p> <p>行政の補助金は、誰かのために使うという公助型が主流であるが、公助型の活動が続かなくなっている。今、市民活動は、仲間内で活動する互助型や受益者負担のビジネスとする交換型へと分かれている。</p>
会長	<p>同じ肌感覚を持っている。補助金の制度そのものが時代に合わなくなっているのかもしれない。資金が必要なケースはあるが、資金で動くわけではない。中越大震災後は、やりたいという気持ちが先走り、そのためにお金がいるという状況だった。</p> <p>所属する連合町内会では、今年の方針に役員と班長の仕事を減らすことを掲げ、飲み会やさいの神などあらゆる行事を廃止した。上の世代の声を全て聞いては、活動は続かない。ちょうど良い所を模索する過渡期なのだと思う。</p>
委員	<p>市民活動のテーマを選ぶ際には、共感できるものを選ぶ傾向が強まっている。活動に共感した企業や団体が資金提供を行うことで、以前より市民活動の可能性が広がっている。一方で、最近では組織においてデジタル技術が活用されるようになってきている。情報漏洩やSNSでの炎上などデジタルリスクに対するマネジメントのアップデートやコンプライアンスが重要になってくると思う。</p>
会長	<p>コンプライアンスに関する研修を多く受講している。今後、守りの知識も必要になると思う。デジタルリスクやガバナンスに関する相談も増えているのではないかと。</p>
協働センター	<p>実際には、市民活動団体が相談に来るほどの問題意識をもっているわけではないが、SNSに写真をアップし、クレームが入ったという事例</p>

	<p>があった。行政とともに啓発をしている段階。</p>
事務局	<p>小さな団体が多いので、プッシュ型で講座等を開催している。</p>
会長	<p>今の時代に合っていると思う。 資料1-3のとおり「何かに関わりたい」という目的が、今の時代のトレンドだと思う。市民活動という言葉が当てはまらないようにも思う。言葉の使い方を含めアップデートしていかななくてはいけない。</p>
委員	<p>市民活動団体の年齢層の割合はどのようか。</p>
協働センター	<p>基本的には人口比に応じているため、高齢者の団体が多い。若者は仕事やPTA活動などもあることから、若者の団体数は少ない。 ながおか・若者・しごと機構が若者へプッシュしているので、他地域と比較すると若者の団体が増えていると思う。</p>
委員	<p>働いている人は、使える時間も少なく集まりづらい一方で、高齢者は自由時間も多し。そのようなことも考慮し、支援の方法を考えなくてはならない。</p>
協働センター	<p>若者の捉え方も様々。ながおか・若者・しごと機構は、若者の主体を学生としている。高齢者と学生の間層も若者と捉え、考え直さなくてはならない。</p>
会長	<p>高齢者と学生の間層は子育て世代なので、とても忙しい。</p>
委員	<p>資料1-1について、公共施設の利用者数が示されているが、旧長岡市内と他地域の利用者の割合はどのようか。</p>
事務局	<p>詳細な割合を示すことはできないが、アオーレ長岡に関しては、駅前という立地から、学生や電車やバスを利用している他地域からの利用者が多い印象。駅周辺の施設は、他の施設より様々な地域から人が集まっている。</p>
委員	<p>学生の利用が多いのか。</p>
事務局	<p>平日日中は高齢者のサークル活動、放課後は学生の居場所というように時間帯により様々。</p>
委員	<p>夏は涼しく、冬は暖かいため過ごしやすい環境なのだと思う。学生は、場所取りをしなければいけないと聞いている。</p>
事務局	<p>アオーレ長岡の利用者数は、興行イベントや市民の手作りのイベントなど、内容を問わず全ての来場者数を集計したもの。1回のイベントで2~3万人の集客があるものもある。全国各地からの来場者数が含まれている。</p>

会長	<p>純粹な市民活動の集計にはなっていないと理解した。アオーレ長岡が 高い稼働率で人を集めているのも事実だと思う。資料にトチオーレなど の各地域の施設を含めなくて良いか。</p>
事務局	<p>トチオーレやいこいねよいたは、地元の方の利用が多い。まちなかの 施設とは利用者層が違う。</p>
会長	<p>利用者数は、まちなかの施設ほどにはならないと思う。過疎は仕方な ないことだが、にぎわいができたことも事実。</p>
事務局	<p>(資料2-1～2-7に基づき説明)</p>
会長	<p>ご質問、ご意見等いかがでしょうか。</p>
委員	<p>市民協働という言葉があるが、近年は、保育の分野でも「地域との協 働を」と言われることが多い。「市民協働」という言葉は死語になりつつ あり、今は単に「協働」という言葉を使うのではないか。</p>
会長	<p>協働の「協」の字には「力」が3つ含まれているため、「協働」に「市 民」と付けずとも、協働には「市民と協働する」という意味がある。市 民協働という言葉は、行政らしい作り方である。</p>
事務局	<p>条例でも「市民」と「協働」は別々に定義されている。</p>
委員	<p>資料2-2について、私の所属する町内会では、飲み会やさいの神など を一斉にやめた。最低限続ける活動も役員のみでできるようにしている。 長岡市総合計画の数値指標に「町内会、子ども会の活動や、地域活 動に参加した人の割合」を増加させる指標の目標が示されているが、現 在の町内会の状況では難しいのではないか。また、増加させる必要があ るのか。</p>
委員	<p>ある地域の町内会では、平均年齢が80歳を超え、子どもも3人しかい ないが、高齢者を集めてバーベキューをした。皆このような場があるこ とを喜んでいる。また、冬にはアプリのグループチャット機能を使い、 除雪の状況をやり取りしている。そのおかげもあり、今年は水が2回し かあがらなかった。</p>
委員	<p>町内会長の熱意によるところも大きい。活動が活発な町内会の存在も 知っている。活動が上手く進んでいる事例などがあれば知りたい。</p>
会長	<p>町内会長の交流の場があると良いかもしれない。まちなかと中山間地 域では一概には言えないが、中山間地域同士の事例は参考になるかもし れない。</p> <p>資料2-3について、華やかなイベントは補助金も交付されやすく、 「良いことをしている」という実感も得やすいが、地道な活動にスポッ トライトを当てることも大切。新聞などのメディアで取り上げてもらえ ると団体も非常に喜ぶと思う。</p>

委員	資料2-4について、無関心層を取り込むことは難しい。郵送物やメールは、関心のある人しか見ない。積極的な情報発信とは、具体的に何を するのか。
会長	具体的な内容は、議題3で説明があると思う。資料1-3でもあった ように「何かをやりたい」層以外に「何かに関わりたい」層を作ると良 いのではないか。「市民活動を一緒にやらないか」という誘いでは、参加 のハードルが高い。「何かに関わりたい」層へのアプローチが大切になる。
委員	資料2-5について、「地域が抱える課題をみえる化」とあるが、資料 1-3でもあったように若者の「何かやりたい」という気持ちや、「楽し そうだからやってみよう」という動機とミスマッチしている印象がある。 ポジティブに見せることも重要。
会長	市民活動は、テーマ型と地域型がある。近年は仲間とテーマ型の活動 を行う人が多い。マイナスをゼロに戻す課題解決の活動と、良い影響を さらに広げる活動の2本立ての視点で考える必要がある。 資料2-7について、ソーシャルイノベーションは簡単に起こるもの ではないと思う。ソーシャルイノベーションが起こった場合は、単に住 民の負担を軽減するだけでなく、より良い社会の実現につながるスケ ール感が伴うものになると思う。
事務局	(資料3-1～3-8に基づき説明)
会長	ご質問、ご意見等いかがでしょうか。
会長	これまで活動支援という言葉を使ってきたが、資金面に限らないサポ ートのニーズが高まってきていることから、資料では「活動応援」とい う言葉を使っている。
委員	企業との連携という部分では、市民活動への参加に意欲のある企業は あまり多くはないと思う。ボランティアへの参加はもとより、時間外の 研修などにも賃金が発生するような状態でもある。
事務局	先日、長岡市が推進するながおか働き方プラス応援プロジェクトに賛 同する企業に対し、市民活動について説明を行った。地道な広報活動を 続けていきたい。
会長	多くの企業に参加してもらうことは難しいかもしれないが、その中で まずは1社、2社と徐々に広げていけると良いと思う。 資料3-8について、未来を創る市民活動応援補助金という名称は、 どのような事業に活用できるかイメージがつきにくいので、単に市民活 動応援補助金としても良いと思う。
事務局	そのようにする。
会長	来年度から補助金の重点テーマを設定し、テーマに沿った事業は、補

	<p>助率が 100%となる上限額を 10 万円から 30 万円に増額する。特に力を入れるべきだと考える重点テーマの案を募りたい。</p>
委員	<p>来年度、文化系のイベントの補助金申請を検討している団体がある。現在、協働センターへ相談している。芸術、文化など「本物に触れる」内容を重点テーマとするのはどうか。</p>
会長	<p>市民活動を行っている委員もいるが、他にいかがか。</p>
委員	<p>空き家が多くあり、今年の大雪で何件かつぶれてしまった。空き家を活用し、居場所づくりができると良い。「居場所づくり」をテーマとするのも良いと思う。</p>
会長	<p>今後、市民活動の若手を審議会にオブザーバーとして参集するのはどうか。審議を行う委員とは別の立場で、自由に発言してもらい、その意見を委員が吸い上げていくと良い。</p>
委員	<p>NPO 法人の解散は増えているか。</p>
事務局	<p>年間数件程度。</p>
委員	<p>NPO 法人の解散を外部に依頼する場合、費用がかかることもある。自分で事務を行うのは大変。このような実情も伝えていく必要があると思う。</p>
会長	<p>貴重なご意見をありがとうございました。</p>
事務局	<p>本日は、長時間の審議を大変ありがとうございました。以上をもちまして、令和 7 年度長岡市市民協働推進審議会を閉会します。</p>
<p>(出席委員の署名欄) 省略</p>	
<p>9 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 1-1～1-10 市民活動のいま</li> <li>・資料 2-1～2-7 協働の方向性</li> <li>・資料 3-1～3-8 これらの取り組み</li> </ul>	